

湿原・湿地への招待 2023

雨竜町 佐々木 純一

2023年、初夏から陽ざしが強く雨竜の片田舎で生涯初の猛暑日と熱帯夜を体験。道北や道東の湿原で30度越えでも日陰が無く、熱中症と吸血昆虫とぬかるみとの戦いです。多くの出会いと喜び、泥んこをいとわず踏み込みました。

春告花より早く咲く花 野幌森林公園

雪解けを待つセリバオウレン、スプリングエフェメラルより早く咲く常緑多年草です。裸木の梢から陽光が差し込む雑木林で、苔むした倒木は最適な生育環境でしょう。自生地は本州ですが観賞用で植えられ代を繋いでいます。

セリバオウレンは漢方薬で黄連（オウレン）といい、ベルベリンという黄色成分を含む根茎は太く節状に連なることが名の由来で、止瀉（下痢どめ）薬や胃腸薬などに用います。

清楚な花は雄花と両性花があり、赤褐色の太い花茎の先に純白の花が、葉は茎元から緑色の葉柄を伸ばしセリの葉形で光沢があり、おしゃれな春告花です（図1）。美しい花に目がないHさん情報の春散策でした。

遠い日高路と近い暑寒路、共に春爛漫

4月22日、日高路を走る。浦河町の井寒台森林公園は早くも春を謳歌している。ニリンソウ、アズマイチゲ、エゾエンゴサク、カタクリ、ミヤマスマレ、キバナノア

マナ、フッキソウ、ヒトリシズカ、オオバナノエンレイソウ、シラネアオイ、オオサクラソウ、エゾムラサキツツジ、エゾヤマザクラと、道北で5月に咲く花たちと出会ってしまった。

時は巡り5月27日、自宅から見える暑寒別岳に走る。増毛暑寒別小屋の清流の森散策路は、初夏ならぬ春を満喫です。咲く花たちは上記を共通種として、冬季多雪型気候と関連したスミレサイシン、フギレオオバキスミレ、タチカメバソウ、エゾノチャルメルソウなどが咲いている。

ここでは暑寒別のオクエゾサイシン（図2）と日高の仮称ヒダカサイシン（図3）を見比べよう。オクエゾサイシンはツボ型で先端が3裂で丸っこく、ヒダカサイシンは裂片の先を指で摘んだような形で、似て非なる形だ。違いをヒメギフチョウに聞いてみよう。

6月初旬のニセコはまだ早春??

山地湿原の6月初旬はまだ早春、ニセコ山系の湿原は去年の枯れ草と若葉の季節でした。10日の神仙沼観察会で前泊して、五色園地の小湿地群と手鏡沼の散策は天気予報通りにすっぱりと雲の中。「雨ニモ負ケズ、風ニモ負ケズ」の横殴りの風雨の一人観察会。10日の朝、鏡沼湿原は瑞々しい新緑の湿原、急いで観察して神仙沼に10分前に到着、快晴で暑い。この時期咲く花たちは雨竜沼湿原と同じだけど、所変